

清心道中金持草鞋
廿

伊豆銀行

逍遙文庫
文庫6
1004
20



文庫 6
1004
20

伊豆金草鞋

伊豆の御宮大権現はかけまくも
天照
太神第一の御子。正哉吾勝々速日天忍徳耳の尊
ふし日本第一の宗廟関東の總鎮守ありと云や
往古より武門誓詞の澄明岡運擁護の電神と
稱し奉つる所あり。さき山中の秘所ハ穴の幽道を
開た。洞裡の冥泉ハ四種の病病と愈し。二六時中
小十方の善悪邪正と裁断しあふと。あま推現の
本誓ありとぞ。しりし神皇后宮三韓を征しあふと
神威と船中にありし。將軍の形と現しあふと。異國

兵悉く恐怖し退きしといひ傳ふ。そむく此の神あり
びよ拷問千々姫の尊瓊杵尊と三柱の大い神
八十萬の神をいざさひ。高天原より此高根小幸はし
かひつらつらみん人皇弟五代孝昭天皇四十二年瓊杵
尊湯の泉の中より灵光と放ち頭われさせらひて
天下蒼生と憐れとさるるいづよ此國を湯出の國と称し
うしと今伊豆と喚て此神を伊豆の山宮と号し奉つる
此書當國の記行は著しむとくゆにすづ此の神のことと
志すも平しむと當地の杖とひもど不知案内ふして覚
束みらむと幸あよ去夏濃州中津川の和哥丸あはれ人。

當國を按歴し。馳々名所をあらまし書留し。記
行を贈り越せしむり取敢むその伝と著し。これど
例の酒客が生酔の筆づき。究めて道路の順逆すべ
の事の送るも妻るべし。どむの識者の批判しあらん
ことと希ふのあり

天保辰春

十返舎一九志

直

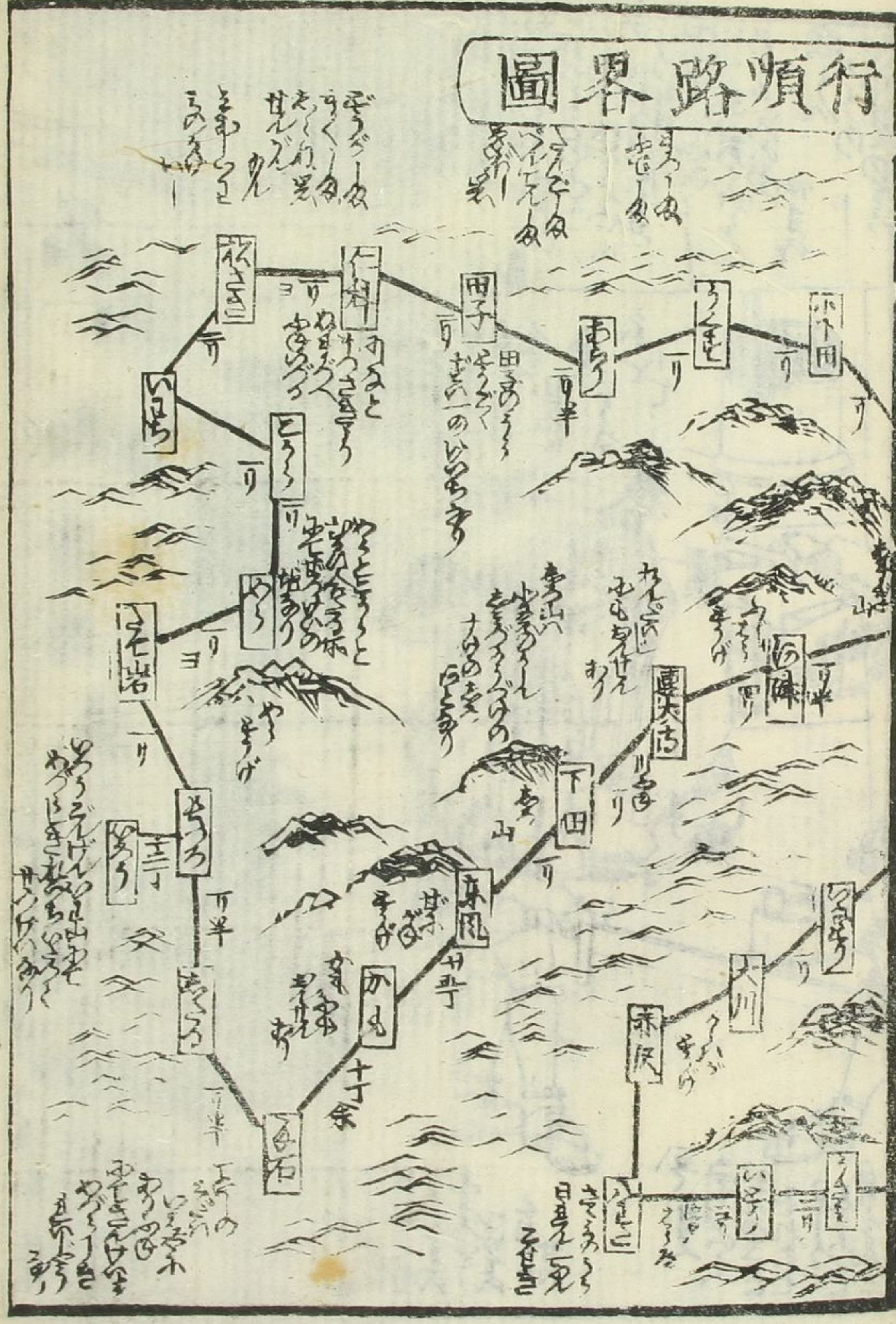
相州

記行 金草鞋

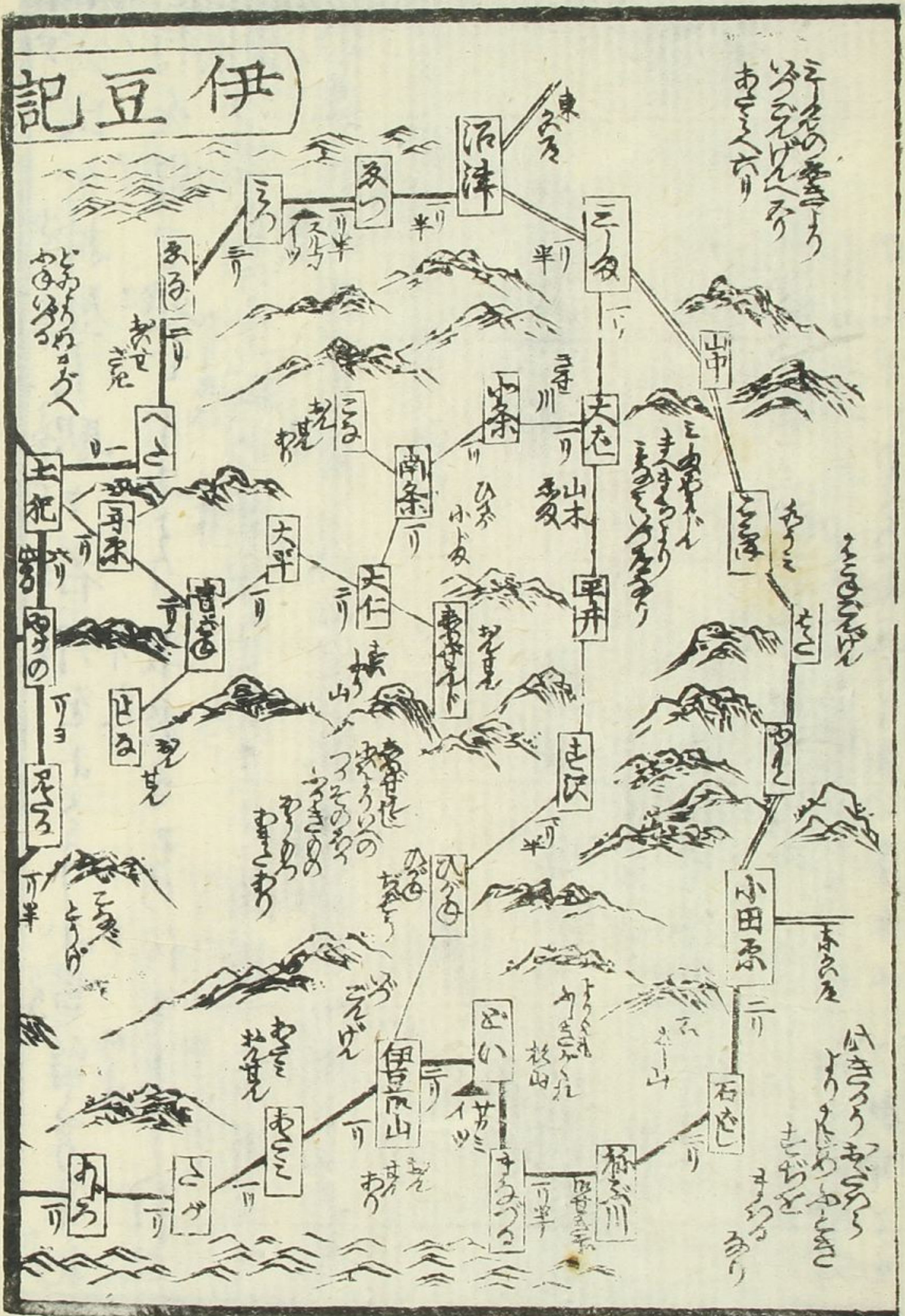
金六冊未辰春發行

廿二編ハ豆州三治及び此編ハこの記よりと下り
とこ子七湯めぐりるもよまけい大山より江の湯まの湯
の古せたりとさるる一例のたふとぬと願ふこと

行頻路界圖



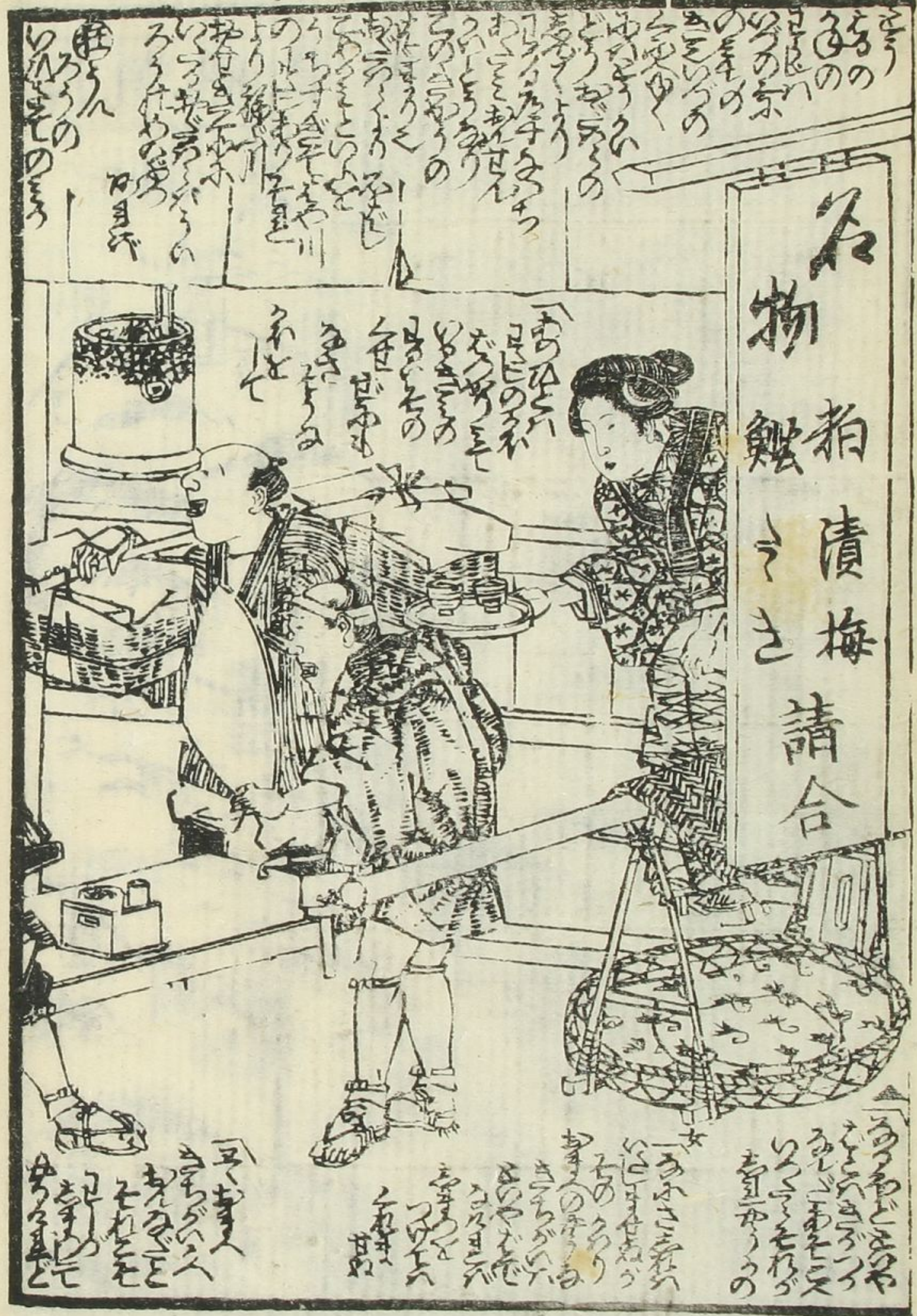
伊豆記



石橋



小田系

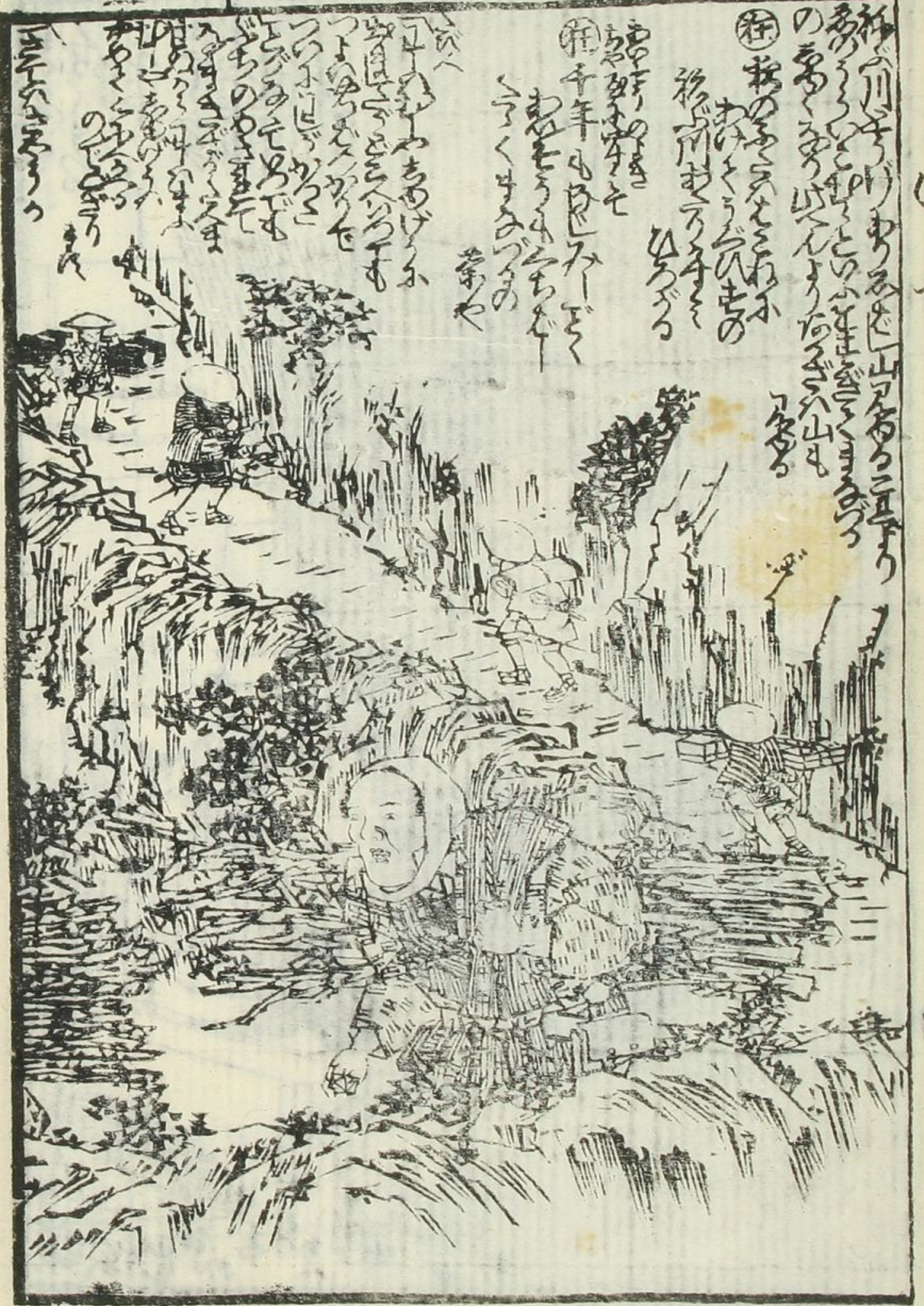


リ 雀那美



日向の山にありて
 雲の影をうけて
 夕陽の光をうけて
 鳥の聲をうけて
 風の音をうけて
 水の音をうけて
 草の音をうけて
 木の音をうけて
 土の音をうけて
 空の音をうけて
 地の音をうけて
 人の音をうけて
 物の音をうけて
 事の音をうけて
 理の音をうけて
 法の音をうけて
 徳の音をうけて
 功の音をうけて
 名をうけて
 実をうけて
 信をうけて
 仁をうけて
 義をうけて
 禮をうけて
 智をうけて
 勇をうけて
 節をうけて
 廉をうけて
 恥をうけて
 孝をうけて
 悌をうけて
 忠をうけて
 信をうけて
 義をうけて
 禮をうけて
 智をうけて
 勇をうけて
 節をうけて
 廉をうけて
 恥をうけて
 孝をうけて
 悌をうけて
 忠をうけて

半リ 川府根



川のほとりにありて
 水の流れをうけて
 風の音をうけて
 鳥の聲をうけて
 人の音をうけて
 物の音をうけて
 事の音をうけて
 理の音をうけて
 法の音をうけて
 徳の音をうけて
 功の音をうけて
 名をうけて
 実をうけて
 信をうけて
 仁をうけて
 義をうけて
 禮をうけて
 智をうけて
 勇をうけて
 節をうけて
 廉をうけて
 恥をうけて
 孝をうけて
 悌をうけて
 忠をうけて

リ 津 祢

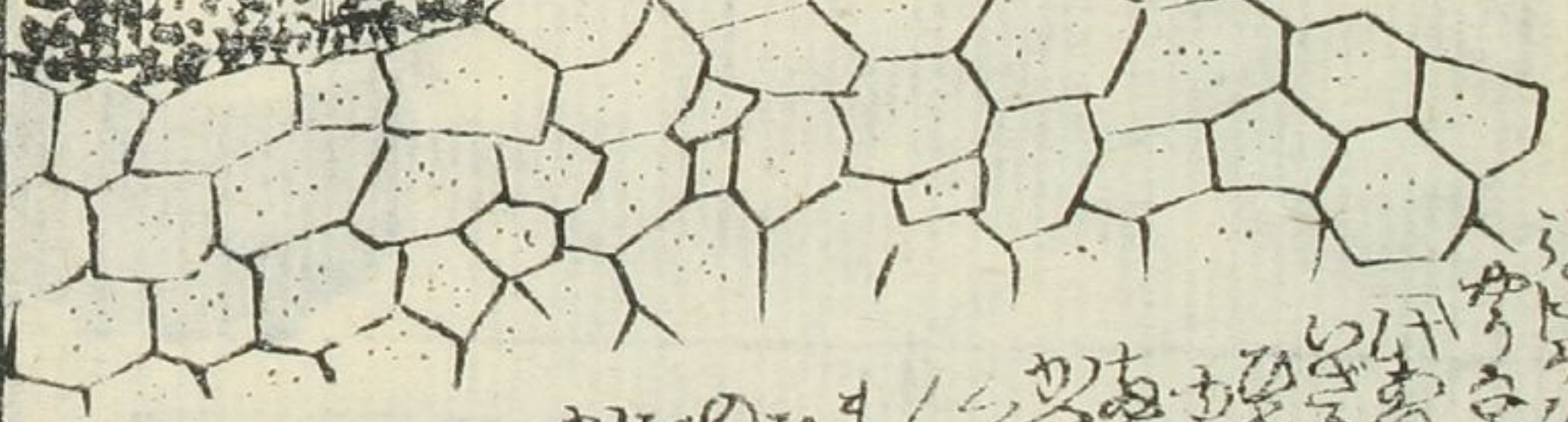
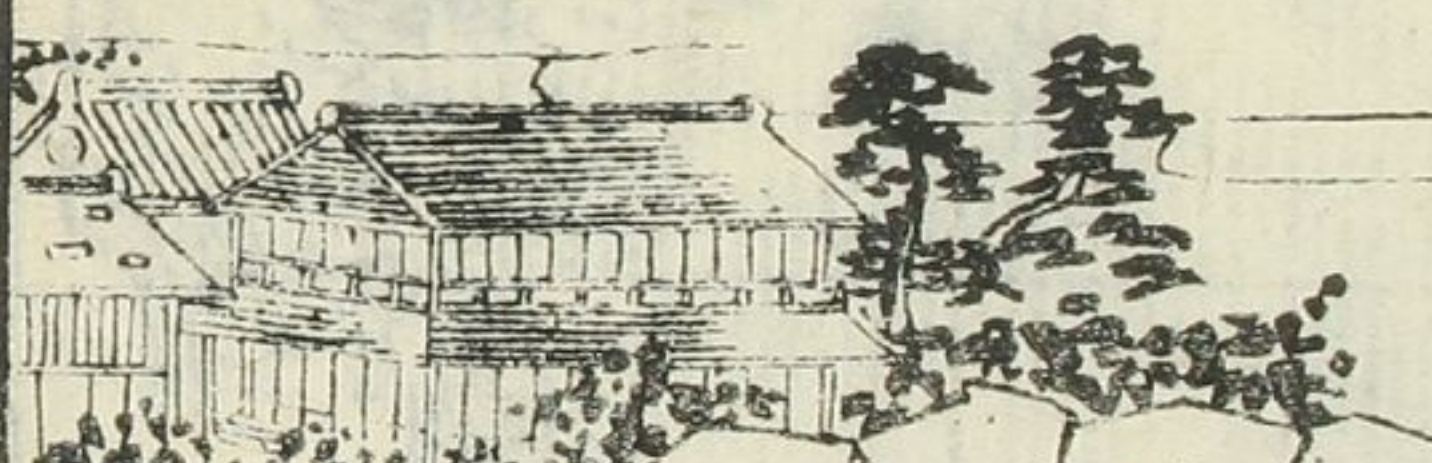


リ 肥 土

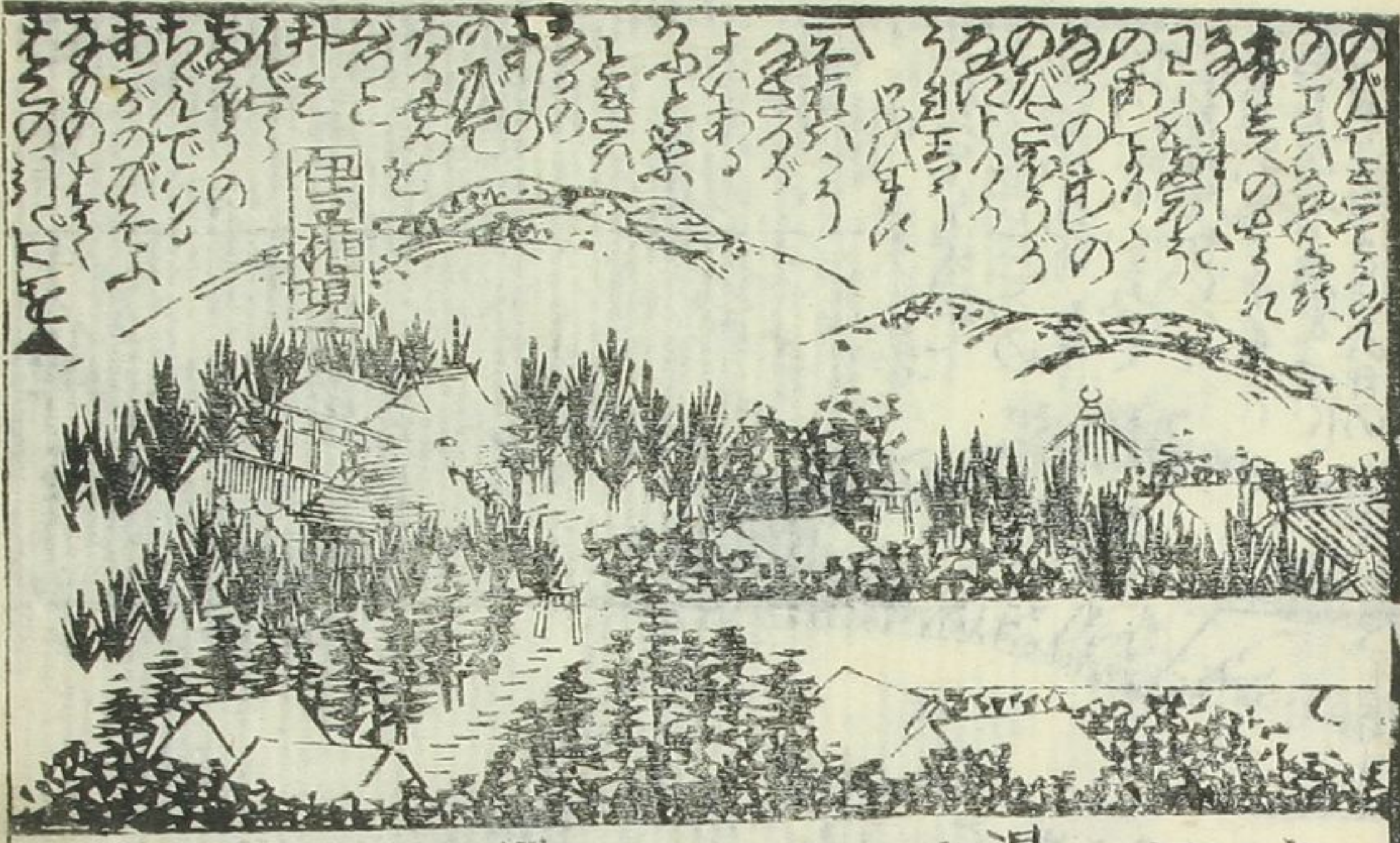


伊豆御山

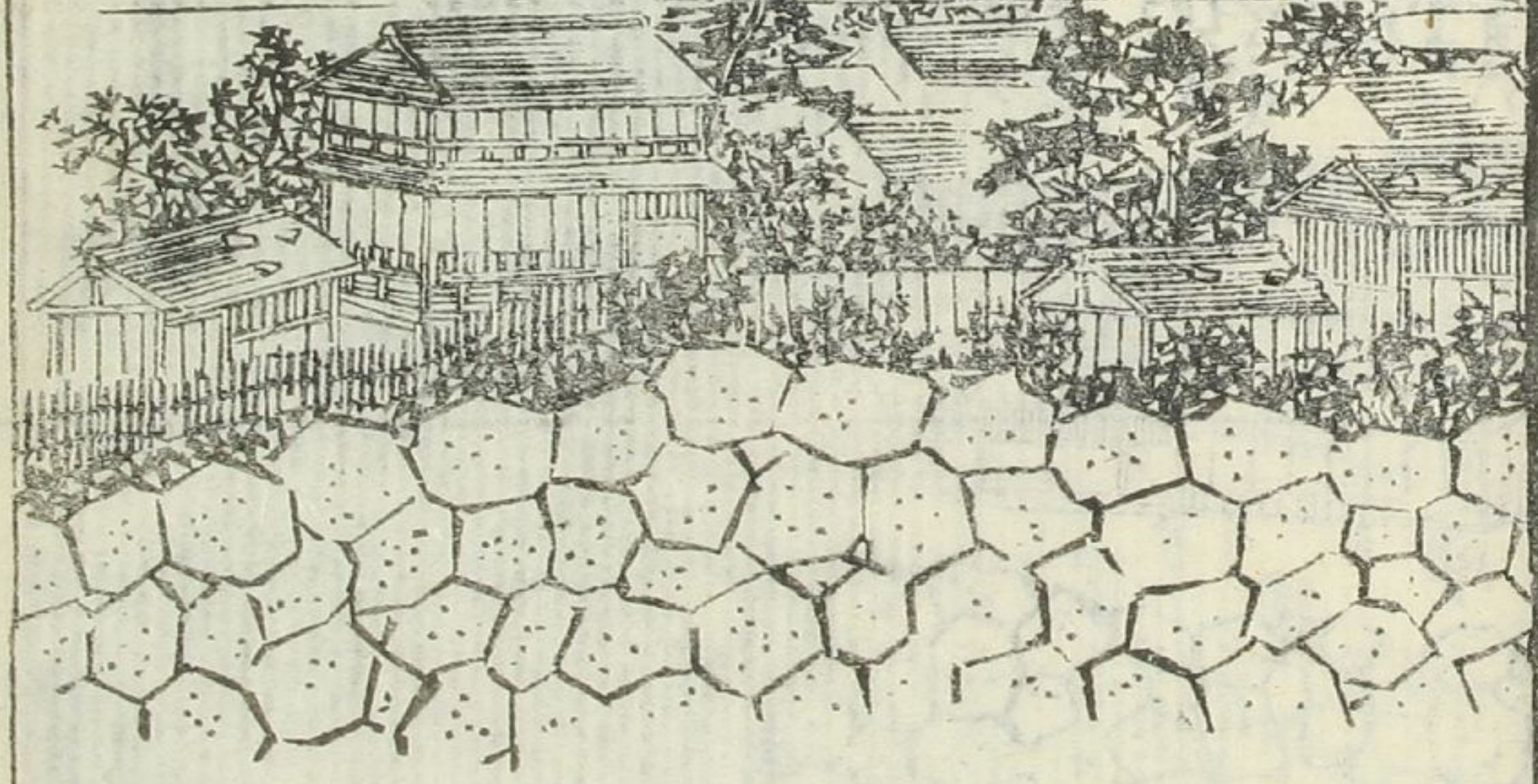
伊豆御山にありては
 昔より名聞ありし
 山なりけり伊豆の
 御山なるを昔より
 名に記すなりけり
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す



伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す

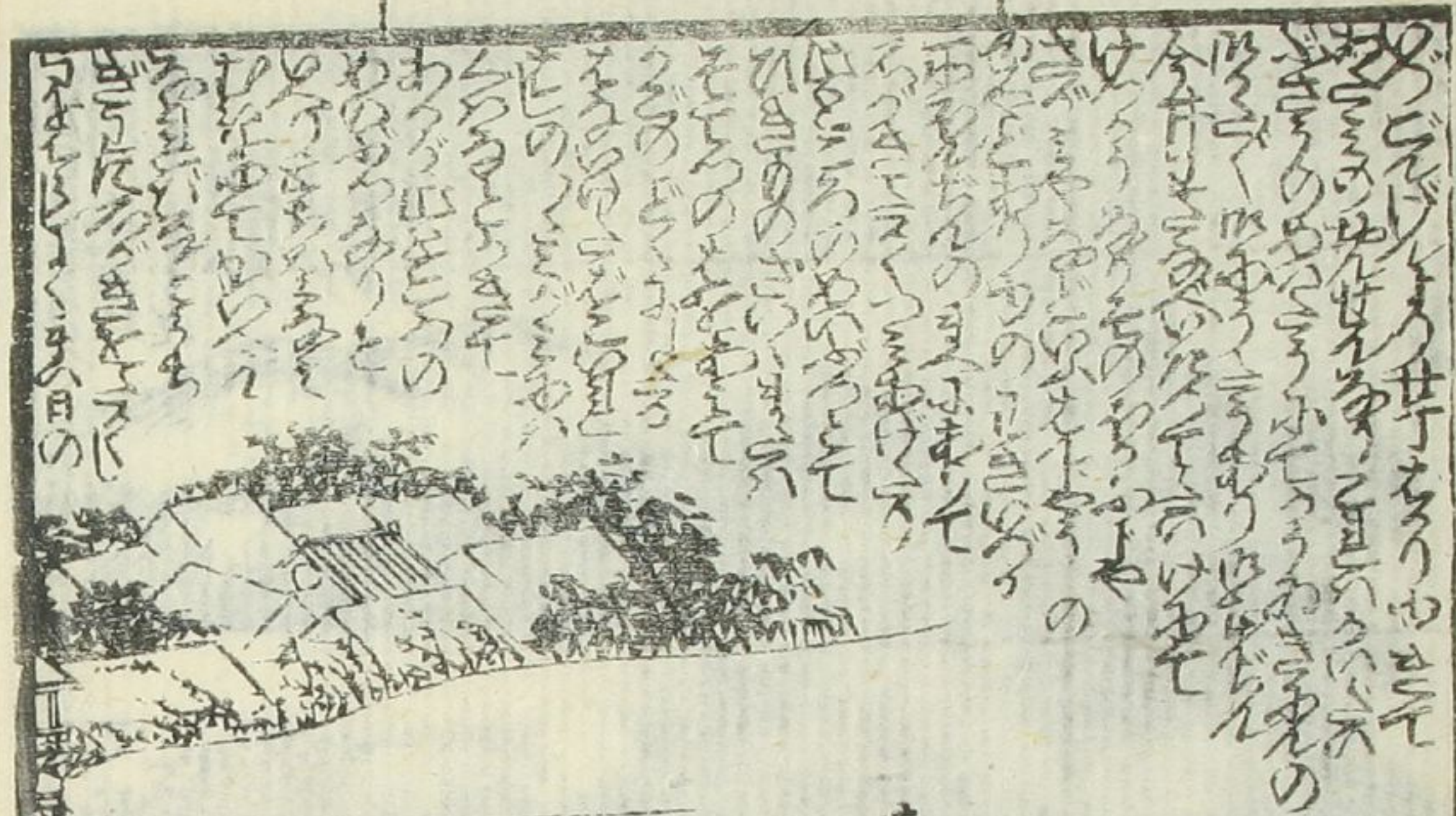


温泉 湯 病

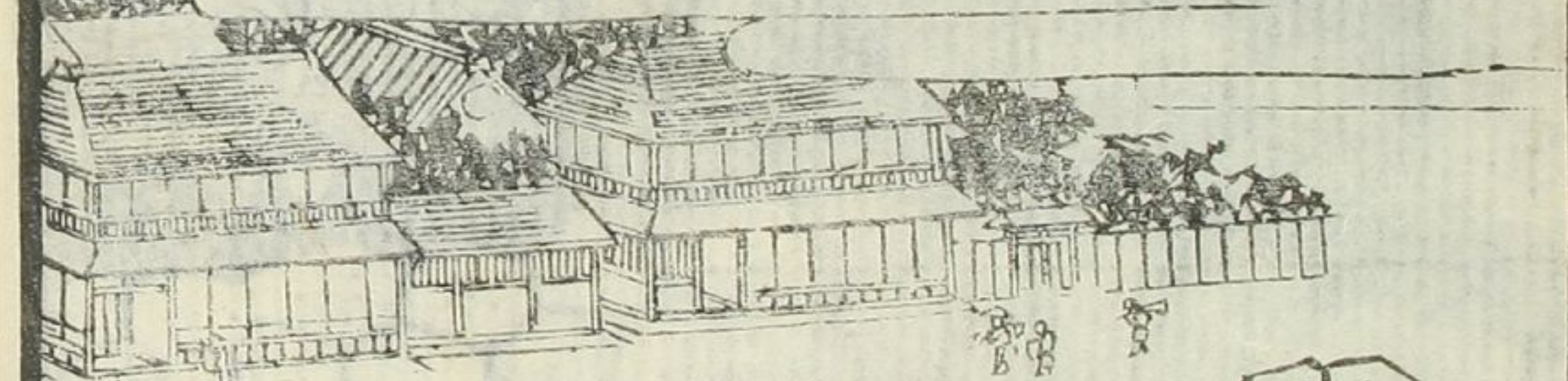


伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す
 伊豆の御山なるは
 昔より名に記す

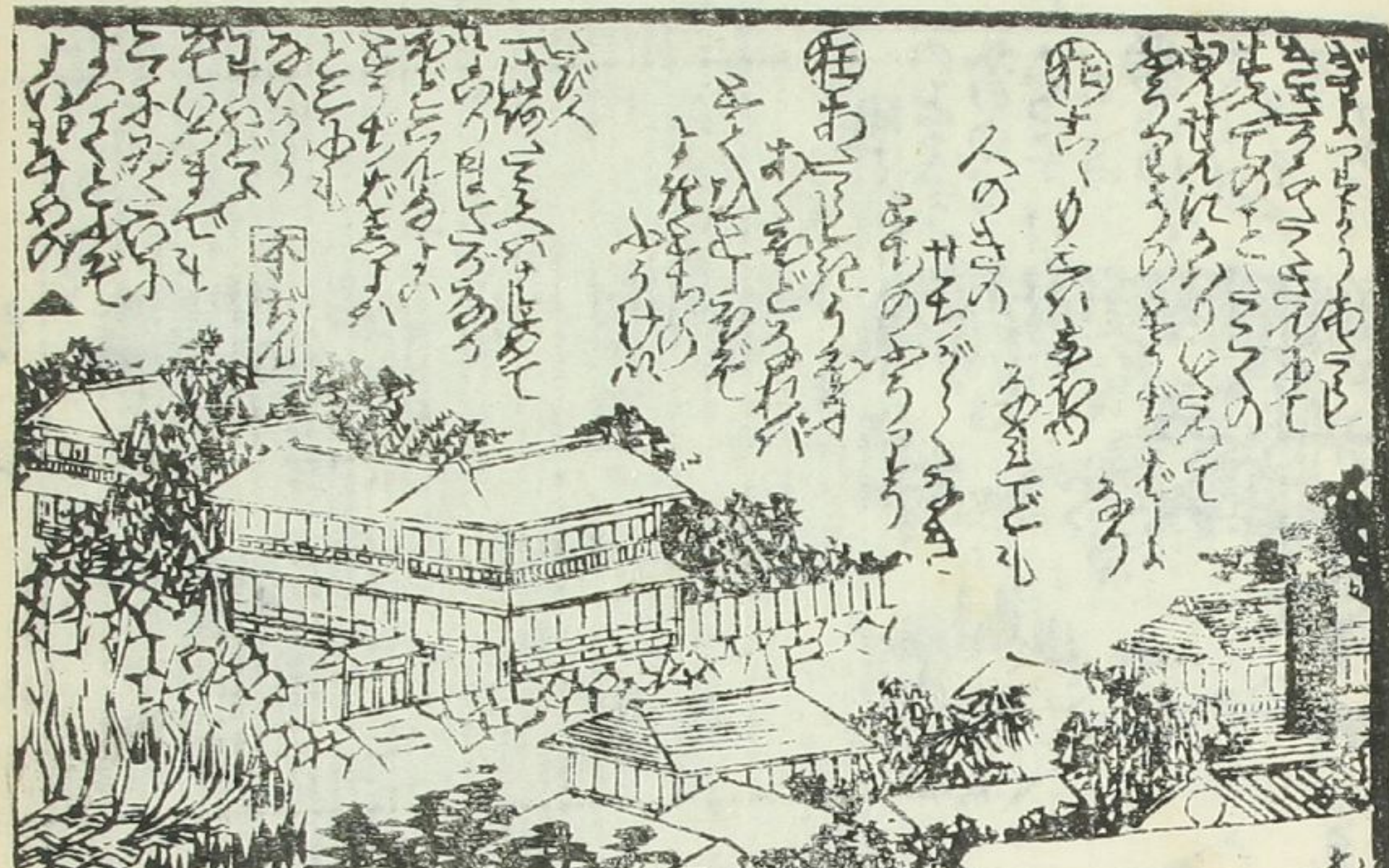
熱海と海



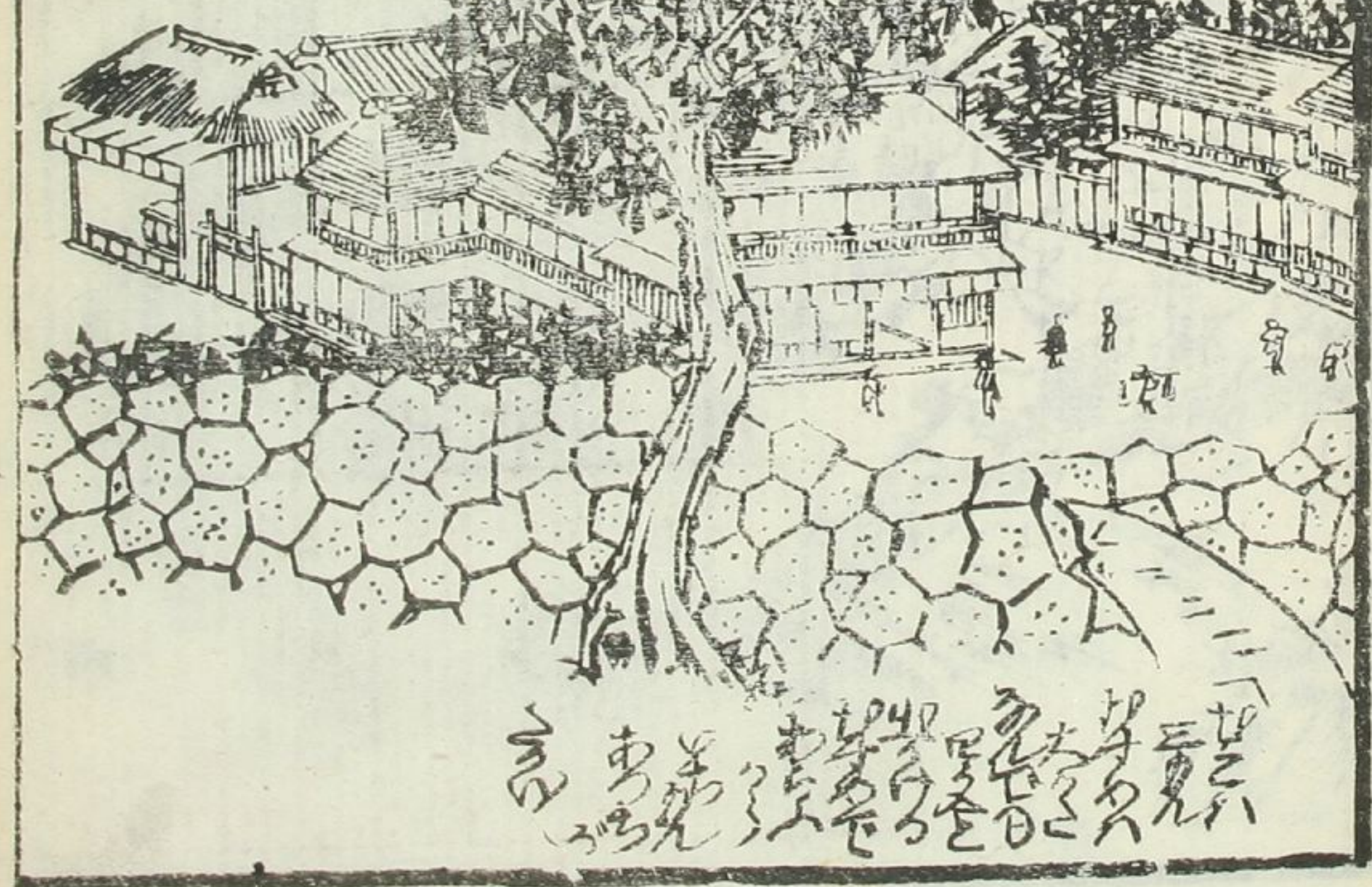
熱海の海は、昔より名産の海産物が多く、その味は、他處に類するものがない。...



この建物は、熱海の歴史を語る上で重要な存在である。その建築様式は、江戸時代の特徴をよく示している。...



この建物は、熱海の歴史を語る上で重要な存在である。その建築様式は、江戸時代の特徴をよく示している。...



この建物は、熱海の歴史を語る上で重要な存在である。その建築様式は、江戸時代の特徴をよく示している。...

細々たり



多賀り



耳高の余



稲鳥の半



東風 廿五



はわりの山
ひさしの山
ひさしの山
ひさしの山
ひさしの山
ひさしの山
ひさしの山
ひさしの山
ひさしの山
ひさしの山



あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山

11

15

加茂



あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山

あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山
あつちの山

11

15

紅石の半



昔の人は
赤い石の
半を
...

...

...

...



...

...

...

...

...

...

長津呂



下り流



名 鯉



一 岩 登



可良妻



可良妻の
 山に
 雲が
 集る
 可良妻の
 山に
 雲が
 集る

可良妻の
 山に
 雲が
 集る
 可良妻の
 山に
 雲が
 集る



可良妻の
 山に
 雲が
 集る

可良妻の
 山に
 雲が
 集る
 可良妻の
 山に
 雲が
 集る

一 余 寄 松



一 地 ち 岩



阿良利



田子と子



可田と下も小



可瀬と久く宇



田邊



あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた

土肥



あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた

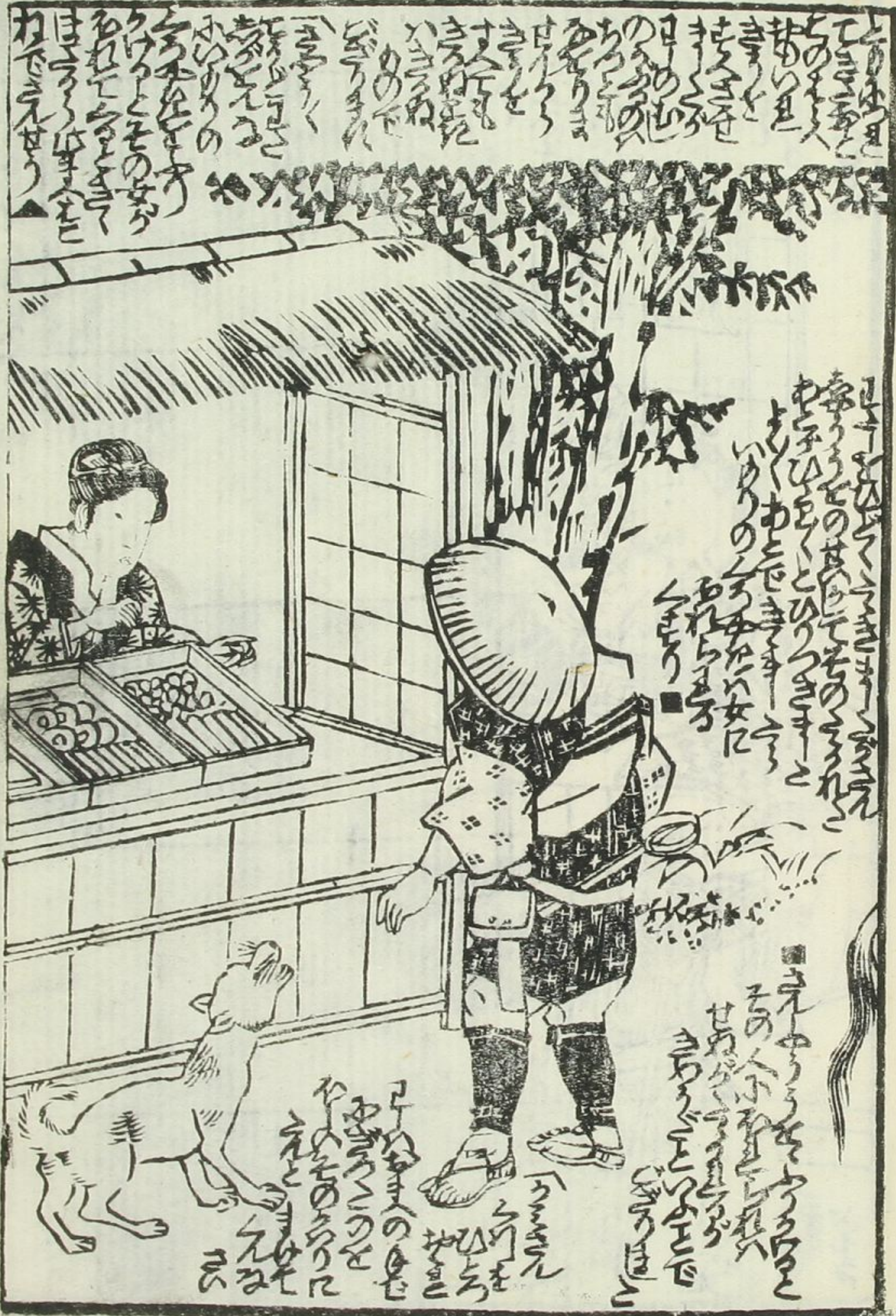


あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた



あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた
あつちの
きりぎりす
のうらみ
はなはた

江戸津



江戸梨



三々 嶋



沼津 新



早稲田大学図書館

011688991996